



映画監督から見たふるさと教育

教育学部附属教育支援センター長 原 丈貴

島根出身で全国的にも著名な錦織良成監督を講師としてお招きして、ふるさと教育のあり方について見識を深めることを目的としたご講演をいただきました。

日本の起源とも言われている出雲地区、並びに自然豊かな島根県を題材としたふるさと教育の可能性について、また映画の制作を通して見てきたふるさとのあり方についての講演を聞くことで、自分自身のふるさとに対する想いを再認識し、ふるさと教育についての理解を深める時間になりました。

講演の中で錦織監督が言われた「島根の良いところに島根の人があまり気付いていない」という言葉が印象的でした。島根県と聞くとどうしても地方都市としてのイメージが強く、何もないところが良いところのようにも言われますが、実際には他県の誇れる場所や文化が豊富にあることに気付かされました。また、その良いところをより深く理解するためには「自分の足で動いて、自分の目で見て、自分の頭で考えること」が大事であることにも触れられました。ふるさとのことに限らず、何事においてもしっかり理解するためには、自分から主体的に関わっていくことが重要であることを再認識させられた講演会でもありました。

